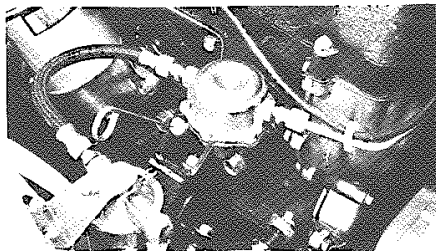


■高速走行前の点検

項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ききはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガンリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

エンジン・ルーム内の点検

① エンジン・オイルの点検・補給



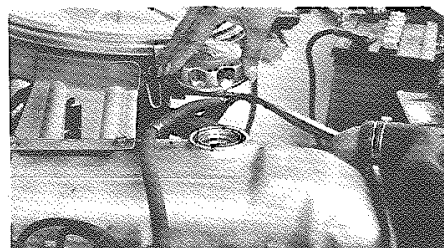
エンジン・オイルの点検……レベル・ゲージを抜いて、きれいな布などでふき、次にレベル・ゲージを元の穴へいっばい差しこんで静かに抜き出してください。このとき、先端についたオイルの位置を読んでください。

オイルがFとLとの間にあれば良く、L以下のときはFまで補給してください。オイルの汚れや変色の著しい場合は、交換してください。

エンジン・オイル……………4.1ℓ

《注意》

エンジン停止直後に、エンジン・オイルの点検をしますと、正確な量を読み取ることができませんので、3分以上たってから点検してください。



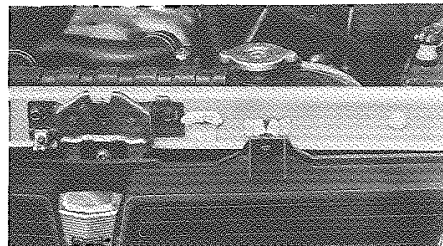
エンジン・オイルの補給……キャップは左にまわしてははずします。エンジン・オイルは、キャッスル・モーター・オイル・スペシャル以上をお使いください。

《注意》

1. オイルを補給したあと、どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。

2. オイルはできる限り同じ銘柄のものを補給してください。

② 冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に90°まわすとはずれません。

水が口元から約20mm以下のときはきれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押しえながら右に止まるまでまわしてください。

なお、ラジエーターの水は、口元までいっぱい補給すると運転したあと水がすこし減りますが、これは故障ではありません。ある程度減ると、それ以上減りません。

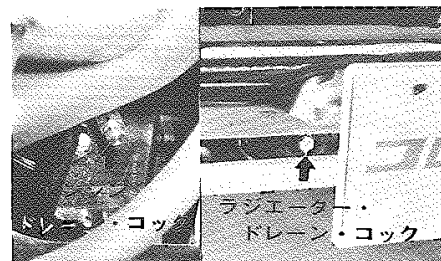
冷却水容量……………7.4ℓ

《注意》

エンジンの冷却水温度が高いときは、危

険ですが、エンジンが冷えるまで、キャップをあけないでください。

③ 不凍液



冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると、ラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャスル不凍液の場合は次表のとおりです。

凍結防止温度 ℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
混入量ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4

不凍液の注入は次のように行いません。

1. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックを左にまわして外し、冷却

水を抜きます。

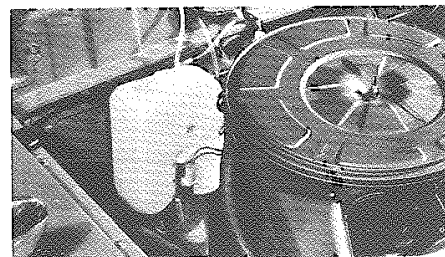
2. 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します

3. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックをしめつけます。

4. ラジエーターに相当量の不凍液を入れ、きれいな水を満たします。

暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

4 ウィンドウ・ウォッシャー液の点検

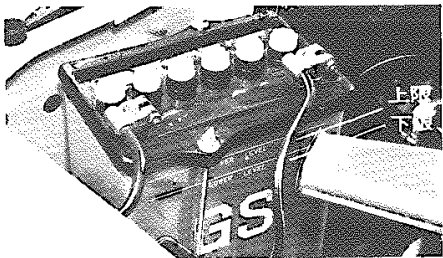


ウォッシャー液が空のままモーターを回しますと、モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておいてください。

無断複製禁止

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗浄力のすぐれたトヨタ・ウインドウ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

5 バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は、使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので、液量は外から点検できます。液面がUPPER・LEVELとLOWER・LEVELの間にあればよく、少ないときは、UPPER・LEVEL まで蒸留水を補給してください。

《注意》

1. 液は必ず蒸留水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため、衣服や塗装

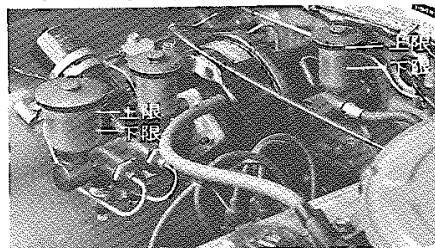
を犯しますのでご注意ください。

3. バッテリーのキャップには、通気穴があけてありますので、目詰まりのないことをご確認ください。

4. ターミナル部がゆるんでいたら、締め付けてください。

5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは、温水で清掃し、グリース、またはワセリンを塗布してください。

6 ブレーキとクラッチのフルード



フルードの量は外から点検できます。フルードは、タンクに流入しているば良れ好です。もし少ない場合はタンクの上限まで補給してください。

万一、フルードの減り方が著しいときは、取扱店のサービス工場にご連絡ください。

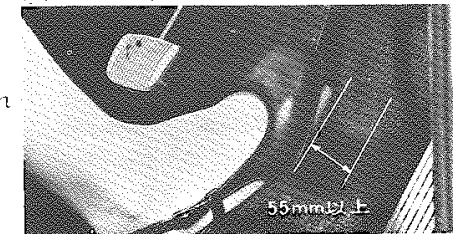
1. ブレーキ・フルードは、トヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2400）を補給してください。銘柄の違ったフルードを使用しますと、フルードの性能が低下し危険です。

2. 補給のとき、ゴミがタンクの中に入らないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

3. タンクの目面には通気孔があけてありますので、目詰まりのないように注意してください。

車内での点検

11 ブレーキ・ペダル



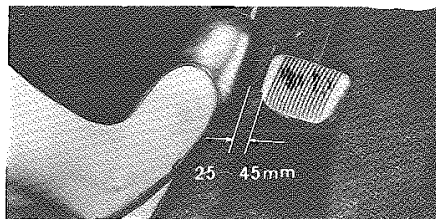
ブレーキ・ペダルをいっさい踏みこんだ

とき、ペダルと床との間が55mm以上あれば異常ありません。またディスク、ブレーキ取付車はこの状態でエンジンを始動すると、ペダルが少し奥へ入れば異常ありません。

この踏み残りしろが少ないとき、またはブレーキの効きがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。

停止中、走行中をとわず、エンジンが回転しているとき、ブレーキ・ペダルを踏んで、BRAKE ランプが点灯した場合は、ブレーキ系統に異常がありますので、直ちにサービス工場へご連絡してください。

② クラッチ・ペダル

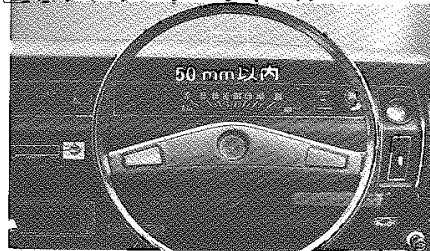


ペダルを踏んで、はじめの25～45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。

始めからペダルが重いとき、または、抵

抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

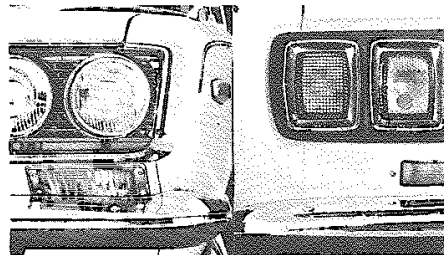
③ ステアリング・ホイール



ホイールを指先で軽く左右に抵抗を感じるまでまわしてみ、握りのところ〈外周〉で50mm以下が正規の遊びです。

遊びが多いとき、何か異常が感じられたときは、早目にサービス工場へ連絡してください。

④ 計器類の点検



ターン・シグナル・ランプ……エンジンキーをONにして左右同じ早さで点滅することをターン・シグナル・インジケーター・ランプで確認します。


ヘッド・ランプ……ライト・コントロール・スイッチをヘッド・ランプONにして、デイマー・スイッチを作用させてロー・ビーム、ハイ・ビームの切替を確認します。

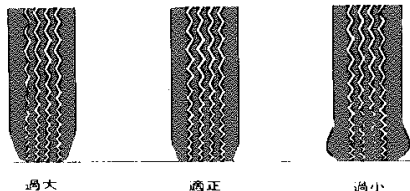
ホーン……ホーンの声が正常なことを確認します。*

ワイパー……ワイパーが正常に動くことを確認します。(フロント・ガラスの汚れ、ホコリを取除いて行ないます。)

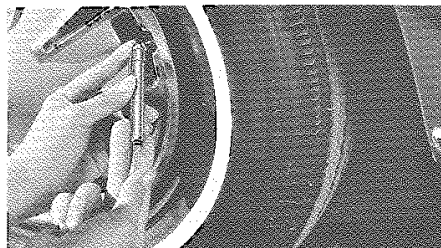
リヤ・ビュー・ミラー……運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。
 燃料計……ガソリン残量を確認します。
 充電計、油圧計……エンジンを始動してウォーニング・ランプが消灯することを確認します。

車外での点検

 = タイヤの点検



タイヤの空気圧を見ます。外観より判断する目安は図のとおりです。タイヤの空気圧は常に適正に保ってください。
 空気圧を計るときは、次のようにして行ないます。



タイヤの空気口のキャップをはずし、タイヤ・プレッシャー・ゲージを、空気が漏らないようにしっかりと空気口に押さえつけます。とび出してきた目盛棒は、勢いにより多目にとび出すことがありますので、指で軽く押さえゆっくりはなしてから目盛を読みます。測定後、空気の漏れがないことを確かめ、キャップをはめます。

標準空気圧

前 輪	1.5kg/cm ² (1.8kg/cm ²)
後 輪	1.5kg/cm ² (1.8kg/cm ²)

()内は100km/h以上の連続高速走行時の空気圧です。

空気圧を調整するときは、スペア・タイヤも調べ少し高めに入れておきます。タイヤが摩耗して残り溝が1.6mm以下になったら危険ですから取替える必要があります。